

「教員を目指す人たちへ」のメッセージ

宇治田原町立田原小学校 校長 尾崎 万佐子

1 はじめに

教員志望の皆様方には、夢と希望を持って教職の道を目指し、教員採用選考試験合格に向かって、日々努力されていることと思います。

教職の魅力は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等違いはありますが、「子どもたちが学校で学ぶ喜びを知り、子どもたちの笑顔が見られること」「できなかったことができた時の感動を一緒に味わえること」「日々成長する子どものそばにいて、その成長を促すことができること」「社会的に安定していること」等いろいろあると思います。

今、「学力充実・向上」「生徒指導上の課題解決」「保護者対応」等様々な苦労もありますが、教職はがんばればがんばるほど楽しくなり、子どもたちと共に成長し、やりがいのある仕事です。「先生になりたい」という夢の実現のために、教育に情熱を燃やすことのできる主体的な姿勢を持ち続け、幅広い人間力（人間としての魅力）を高めていただくことを願っています。

2 現在の児童・生徒の様子

今、児童生徒は様々な課題をかかえて学校に通っています。

- ・自分に自信が持てず、自己評価が低く、自らの将来や人間関係に不安を抱えている。
- ・子どもらしい表情が喪失している。にこやかな表情が少なく、何事にも無表情であったりさめた目で物を見つめる傾向が強くなってきている。
- ・「生命」や「死」に対する意識が変容してきている。
- ・様々な心の悩みを抱いている。
- ・体験の不足による感動体験が減少している。
- ・集中力、忍耐力が弱い。
- ・配慮を要する児童生徒が増加している。

などです。

このような状況の中で、子どもたちに日常生活の中で、きまりや約束をきちんと守ろうとする意識「規範意識を育成」することが今、大切です。

また、「好ましい人間関係の育成」や「基本的な生活習慣の確立（早寝早起き朝ごはん）」ができるよう子どもたちに家庭と連携してねばり強く繰り返し指導することも大切です。

子どもたちに他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分への自信を持たせる必要があります。そのためにコミュニケーションや感性・情緒、知的活動の基盤としての「言語力の育成」を重視し、体験活動の充実を図ることが求められてい

るのです。言語の力をはぐくむため、読書活動を推進し、読書から語彙を増やす取組をしたり、各教科で言語活動を充実させる実践が各校で行われています。

また、通常の学級で特別な配慮を要する児童・生徒が増加しています。特別支援教育では一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かい指導方法が求められています。自分の子どもに対する親の理解が得られるよう保護者や関係諸機関との連携が大切です。

3 教育の現状と課題

今、家庭・地域社会の教育力が低下し、人と人とのつながり、連帯感の希薄さなど課題が残されています。すべての親を対象とする家庭教育支援や社会全体による家庭教育への支援の充実を図ることが求められています。家庭教育は「すべての教育の出発点」として重要視され、家庭の教育力を向上させることは、親の教育力が高まり、家庭が安定すれば子どもが安定し何事も意欲的に活動できてきます。子育てとともに、親育ても必要な時代なのです。また、地域社会全体で子どもを育てる環境づくりが求められています。

学校・家庭・地域社会が自立的にそれぞれの役割を自覚した上で、学校が保護者や地域の信頼に応え、家庭や地域社会と連携しながら子どもの健やかな成長を図っていくことは、今日の重要な教育課題であります。

また、「府民の信頼を高める学校づくり」が大切であり、「開かれた学校づくりの推進」として学校評価、学校評議員制度を活用し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開しています。教師も評価される時代であり、教育目標を達成するため、教師がしっかりとした信念を持って教育にあたる必要があります。

さらに学校は、説明責任も求められる時代でもあります。学校だよりやPTA総会等で、学校の教育目標や方針を説明します。2月には学校評価アンケート等の外部評価や内部評価に基づいて分析し、報告して、保護者の願いを適切に受けとめて改善にいかします。

4 学校の役割

学校の役割は、自ら考え、主体的に判断し、表現したり、行動したりすることができる資質や能力を身に付けた児童生徒を育成するため、基礎・基本を徹底して学力の充実・向上を図り、一人一人の個性を伸ばす教育の充実に努めることです。

また、豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」の充実を図り、たくましく生きるための健康や体力の向上に努めることです。

「確かな学力（質の高い学力）」「豊かな人間性」「健康や体力」などの「生きる力」を育てることのできる意欲と情熱にあふれた教員の「教師力の向上」を図るための研修も学校の役割です。

教師は授業が勝負です。授業力と実践力が求められます。そして、よい授業を行うための「学級経営力」や「児童・生徒理解力」が必要です。特に今、学級経営力が重視されています。学級経営の大切な要素は「学習指導」と「生徒指導」の2つです。つまり、確か

な学力をつけること、豊かな心を育てることが学級経営の柱にならなくてはなりません。教師は「しっかりとした現状を把握する力」と「教育目標と方針を持ち、実践する力」つまり「学級経営力」を磨くことが大切です。

学級経営がしっかりできていれば学校教育目標が具現化され、児童生徒の命を守り「安心・安全で楽しく学べる学校」「保護者や地域に信頼される地域社会の学校」等特色ある学校づくりができるのです。

5 教員に求められるもの

「教育は人なり」と言われるように、学校教育の成否は、最終的にはその直接の担い手である教員に負うところが極めて大きいものです。

「求められる京都府の教員像」をいいます。

- ・児童生徒に対する教育的愛情と、教職に対する使命感・情熱を持っていること。
- ・豊かな感性を持ち、明朗かつ健康で、人間的魅力にあふれていること。
- ・高い「授業力」を持ち、児童生徒に確かな学力をつけることができること。
- ・社会的良識と自ら学ぶ意欲を持ち、児童生徒や保護者、職場の同僚、地域の人から信頼されること。
- ・「ふるさと京都」への理解と愛情を深めるとともに、国際的な視点に立った教育を推進することができること。

子どもたち一人一人をかけがえのない存在として大切にし、子どもたちに対する深い愛情と教育に対する情熱を常に持ち続ける教員になってほしいと思います。子どもを慈しみ、共に喜び、共に悩み、共に考え、共に学ぶという姿勢を忘れずに一生懸命、熱心に日々の教育活動を進めれば児童生徒や保護者との信頼関係を確立していくことができます。また、様々な人との豊かな人間関係が築けるようコミュニケーション能力も求められています。

若さを生かし、学校の内外を問わず幅広い人間関係を築き、教師として、一人の人間として、社会性を身に付け、使命感、情熱を持ち、柔軟で豊かな感性で、明るく、元気に何事にも前向きに取り組む教員を目指していただきたいと思います。

6 京都府における教育改革

京都府では、教育改革を総合的に進める指針として「京の子ども、夢・未来」プラン21を策定して様々な施策を展開しています。このプランは京都府の教育改革の一層の進展や教育のさらなる充実を目指し、時代の進展を踏まえた見直しを行いながら京都府ならではの教育改革を進めています。このプラン21の構成は、大きく4つの柱からなっています。

- ・学力の充実・向上と個性や能力の伸張を図る教育の推進
- ・豊かな人間性の育成と健康や体力の向上を図る教育の充実

- ・府民の信頼を高める学校づくり
- ・家庭・地域社会の教育力の向上

この4つの柱が推進されることによって、21世紀を担う子どもたちが「確かな学力」「豊かな人間性」「健康や体力」などの「生きる力」を身に付け、夢や希望を持って世界に羽ばたく人間として大きく育っていくことを願い、そのことを目指して各学校で実践しています。

また、「まなび教育推進プラン」では、子どものための京都式少人数教育を推進し学力の充実・向上の取組をしています。さらに、児童生徒の学習習慣が定着するよう「まなびアドバイザー配置」「京のまなび教室推進事業」「親のための応援塾開催事業」等京都府ならではの子どもの体験活動や学習活動の充実を図る取組をしています。また、京都府独自の「心の教育」学習資料集「京の子ども 明日へのとびら」を作成し豊かな人間性をはぐくむ実践をしています。この京都府ならではの教育を皆さんと一緒にできることを期待しています。

今、京都府では、教師力の向上を図るための研修の体系化など教員のライフステージに応じた人材育成の取組が行われています。特に若い教員を大切に組織的に育成していく取組を進めています。また、実践力と自己の資質能力の向上に結びついた教職員評価制度が実施されています。教育目標を具体化し共有するための取組をすることにより、教師の授業力、学級経営力、児童生徒理解力が確実に高まってきています。

最後になりますが、教師の仕事は体力がいります。健康には十分気をつけていただき、「教員になりたい」という夢が京都府で実現することを願っております。がんばってください。